

令和5年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和5年5月30日（火） 9時30分～

2 開催場所

千葉市役所 2階 XL会議室203

3 出席者

（委員）神野委員長、椎原委員、関委員、高梨委員、廣崎委員、桜井委員

（事務局）小名木生活文化スポーツ部長、市倉文化振興課長、川口文化振興課長補佐、
松田文化振興班主査、安藤主任主事、伊藤主任主事、野口主事

4 議題

（1）次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について

5 議事の概要

（1）次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について

次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について意見交換を行った。

6 会議経過

<事務局説明>

【神野委員長】

私の方で簡単に補足させていただくと、文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」については、ジャンルの多様化ということが今後求められるという視点になります。

文化を創造する人材を「育てる」についてはゆかりの再定義の視点となり、未来志向という形で、既存のゆかりではなく、これから千葉市にゆかりを持ちたい人への支援となります。

文化芸術を育む場を「支える」については、活動の場の見直しと、特に踏み込んで書かれているのは、社会包摂の観点と、文化芸術分野以外への関与になります。

千葉文化の担い手を「つなぐ」については情報発信として各施設の情報メディアの信用度の向上という視点になります。

文化芸術によって千葉の魅力を「活かす」については、新たな分野と連携をすることで新たな価値が生まれる転換となるという視点となります。

【高梨委員】

資料2-3基本施策5の場所に限らず、学校等も含めた地域資源ということについてですが、中央区や美浜区などマンションで文化芸術活動を行っているところが多くあります。

そのような地域の会で、地元の文化芸術活動をしている人の活用などを行うことが、裾野を広げるということに繋がるのではないかと思います。

【椎原委員】

マンションの問題など、都市部の問題もありますが、若葉区など空き家が多い状況があり、2極化が進んでいるように思えます。

また、若葉区では高齢化が進んでいるため、地域の祭りがどのくらい機能していて、そこに文化芸術が関わることができる余地があるかについて、リサーチの対象としても良いと思います。

【神野委員長】

千葉市の中心市街地ではないエリアでは空き家問題などがあり、今までフォーカスしてこなかった地域の課題の洗い出しを行うとともに、文化芸術を通じて新たな価値を創造したり、文化芸術活動を届けるという観点については、今後計画が策定されて、施策の展開を検討する際に、議論をするべきかと思います。

【桜井委員】

現代は高齢化が問題となっておりますが、アートは高齢者がいきいきと生活したり、地域に参加するきっかけになっています。

身近な地域での開催も良いと思いますが、様々な事情のある人も文化芸術に親しめるように、ズームなど、オンライン参加できるハイブリットな開催が望ましいと思います。

地域の空き屋の活用の一環として、イベントの開催を通じて、過疎地への通信環境の整備なども見込める可能性があります。

【神野委員長】

前半の高齢化の問題などは基本施策3の「支える」のところで、ニーズを探りながら取り組むと良いと思いました。

後半の新しいメディアを使用するものについて、コロナ際の各種支援などは何か活かす予定はあるのでしょうか。

【事務局】

コロナの支援は一過性の物で、特に活かせるものではないです。ライブハウスの支援などは、ライブハウスからの配信への支援という形で、一般の方が広く支援を受けるといった性質のものではありませんでした。

【神野委員長】

実施したことを一過性にせず、今後も生かしていくことは重要であると思います。

【事務局】

基本施策3あたりで、触れさせていただければと思います。

【廣崎委員】

オンライン配信について、公共団体では割と配信ができていると思いますが、民間ではまだ難しいという印象です。

基本施策2の文化を創造する人材の育成の課題で、「本市で文化芸術活動を行ってみたいと感じることができる環境を整備し」というところは、市民がわかりやすい表現にできたら、より気を引く箇所になるのではないかと思います。

また、外部からの招致について全国から千葉市を盛り上げようという雰囲気が出ているのが感じられました。

【神野委員長】

人材育成等、文化芸術を担う人材を千葉市の中で賄おうとする形から、外部から来る千葉市を盛り上げたい人を活用していく形にしていけたら良いと思います。

【事務局】

具体的な事業展開につきましては、次回の会議で施策の展開などを審議しますので、その際にご意見をいただき、参考にさせていただければと思います。

【関委員】

基本施策1の「広げる」では、鑑賞を謳っていますが、千葉市内の芸術を千葉市民が鑑賞することについて、東京での鑑賞の支援など千葉市内での鑑賞にこだわらなくてもいいのではないかと思います。

【神野委員長】

コンテンツの充実の観点では、みんな東京に見に行けば良いということになってしまうのではないかと思います。

【椎原委員】

市内の文化芸術のコンテンツはさみしく、今後文化振興財団がどれだけのイベント開催ができるようになるかが大きいと思います。財団で文化芸術に関する知識を有した職員が採用されていくようにしないといけないと思います。

東京に見に行くという風習は実際あると思います。そのような風習のあるなか、市内の文化をどう作っていくかが課題であると思います。

併せて、県との関係性をどうするかということがあります。

さいたま市では高齢者の劇団が作られています、カリスマ性のある監督がいて、わざわざ東京から観客が来ています。それくらい千葉市で予算を持って対応ができるかにかかっていると思います。

【神野委員長】

千葉市ゆかりについては、基本施策に2に具体的には書いてはいませんが、広くゆかりとすることも想定しているという形になります。

また、財団のアーツカウンシル化などあり方については、もう少し後の段階で議論することになるとと思いますが、相当な覚悟をもって取り組まないといけないのではないかと思います。

それでは、課題についての議論は終了として次の市民意識調査についてご説明をお願いします。

【神野委員長】

先ほどは、基本施策の取組のという観点から皆様にご議論いただきました。今度は市民意識調査の結果を取りまとめた内容についてご意見をいただいて、計画策定の参考として使用していくということになるかと思っています。

【椎原委員】

何が大事なのか見えてくるアンケートであると思います。施設をつくるということだけではなくて、コンテンツを作ることも大切であるということがよくわかります。

千葉市のコンテンツを財団が活用することが難しいということであれば、外部の力のある企業と連携をしてもいいのではないかと思います。起爆剤になるようなものが必要になってくるかと

思います。

【神野委員長】

コンテンツということ言うと、目に飛び込むというような誘因性が高く、観にあって心が潤うような、自分の主体性などが更新されていくようなコンテンツ実現を検討していく必要があります。

【廣崎委員】

地域格差とアンケートについて関連性があると思うので可能であれば、地域別で結果を出せたら良いと思いました。

【神野委員長】

千葉市も広いので、高齢者の多い地域と都市部の地域では結果にかなり差が出てくるのではないのでしょうか。今回はそのあたりを想定したアンケートではなかったので、次回調査の際は活かしていただければと思います。

アンケート調査・分析については設問内容、設問等、こちらが意図した内容を相手が正しく認識し、回答できるように、また、回答をクロス集計し分析をするなど、専門家に依頼することが今後は必要になってくるのではないかと思います。

【関委員】

「文化的なまちか」などについて、市民や若者よりアーティストが高いのはなぜでしょう。アーティストの方が低い傾向が出るかと思っていたのですが。そう考えるとこのアンケートでのアーティストは誰を指しているのでしょうか。

【事務局】

千葉市新人賞や奨励賞を受賞した方に対してアンケートを行っています。

【関委員】

対象人数が少ないことも影響しているのでしょうか。

その他でも、NO.16の千葉市の知名度向上について、アーティストが活動する際に千葉市の知名度向上について考えてはいないと思います。

【事務局】

NO.16の千葉市の知名度向上については、市民向けにアンケートを実施しているものでして、市民側がアーティストに期待していることということになります。

【神野委員長】

今回アンケートの対象としたアーティストも、サポートを受けてきて来た人達であるということ考えると、かなり低い数値であると思います。

市民は千葉市がどんな支援をしているかなど、知らない層が多いのではないのでしょうか。そのような結果から、次につながる分析ができるようなアンケートを今後は作らないといけないと思います。

【椎原委員】

有名人も千葉市出身ということを押し出してはいないと思います。

【神野委員長】

やはり東京の学校に行って、東京で活動することを考える人が大多数だと思います。

ですので、そこで大切になってくるのがゆかりの再定義になろうかと思います。

地方から出てきた人などが、住む場所を検討する際に、千葉市はゆかりがないと支援しないという状態では千葉市に住もうとは思われないので、全国から千葉市にきて活動したいという人を支援して行って欲しいと思いました。

【椎原委員】

千葉市には、芸術系の人あまり住んではないのではないかと思います。

【関委員】

アーティスト活動を千葉市で切磋琢磨してきたということであれば、千葉市ということを出し出すと思いますが、出身は千葉市だけ切磋琢磨は東京でということになると、特に千葉市出身であることは押し出していかないと。そして、現状千葉市では切磋琢磨できる環境は存在していないように思えます。

【神野委員長】

千葉大の学生も、千葉市に愛情は持っているけれども、大学を卒業したら東京にというビジョンを持っている人が多いです。千葉に戻ってくる人は、西千葉の人的ネットワークを求めて戻ってくる人が多いです。

アーティストについても、生活の場と製作に関する支援の両方を提供することができるようになると、アーティストが移り住んで来て、文化的なネットワークが構築されるようになってくると思います。

<事務局説明>

【椎原委員】

この中で難しい項目は、千葉市らしいの項目になるかだと思います。

財界人とのネットワークなどを活用していくことも必要なのではないでしょうか。

【神野委員長】

財界人には芸術と連携をしたい人も多いと思います。

【廣崎委員】

千葉市らしさを謳う必要はあるのでしょうか。

【神野委員長】

千葉市らしさを形成していくために、個性的な取組を続けていくということになると思います。

【椎原委員】

千葉市らしさということについて、ブランディング化事業ということになるのでしょうか。

【事務局】

千葉市はどのようなところか胸を張って市民の方が言えるようなアイデンティティに、文化芸術もいづれなあってほしいと思いました。

【椎原委員】

新庁舎に入ってきて、加曽利貝塚、スポーツなどはポスターの掲示がされていましたが、文化ホールや美術館は飾られていなかったです。

せめて美術館くらいはブランディングとして掲示されてもよいのではないのでしょうか。

【関委員】

千葉市の公共ホールは色が感じられないです。東京の民間劇場などは劇場ごとの色があるように感じます。そのあたりがブランディングに繋がるような気がします。

【神野委員長】

使いたいと継続的に選ばれることを通じて、イメージが定着し、それがブランディングに繋がるというご意見であると思います。

【事務局】

千の葉の芸術祭を経て、一つの強い個性ではなく、皆さんの中での可能性を生むという考えで進めていけたらと思います。

【神野委員長】

今ある個性を無理やり活用するのではなく、新たな個性を見つけ、地道に育てていく方が、千葉らしさをつくることにつながるのではないかと思います。

【高梨委員】

発見して育っていくところに期待していきたいと思います。

【椎原委員】

中心市街地はにぎわいのベースとなる場所であると思いますので、中心市街地のハレをどう再生するかにかかっていると思います。

【神野委員長】

千葉大の学生も今や千葉の中心市街地に用事がなくて行かないと聞きますね。

【桜井委員】

市民の目線として、ボランティアの人的資源の育成は重要だと思います。ボランティアの身分の確保は大前提として、個人の背景にあることまでくみ取ることができて、初めて育成に繋がるのではないかと思います。それによって誇りをもってボランティアに取り組めると思います。

活動を周囲の人からうらやましがられるような、千葉市ならではの誇りの持てるボランティア育成が形成されると良いと思いました。

【神野委員長】

千の葉の芸術祭でベイタウンからのボランティアとして参加した人は文化芸術を通じた地域活動を期待していたという話がありました。周囲の人のそのような活動に参加したことを話すことで口コミにつながるといこともご意見のとおりと思います。

美術館のボランティアのようにハイアートに関するものとなると、意識が違うので、市民が気軽に活動できる場所を視野に入れて欲しいと思います。

議題については以上となります。事務局にお戻しします。